

# せっかち 園長の ひとごと

2015、9、30

認定こども園あかみ幼稚園・メイブルキッズ 統括園長 中山昌樹

先日 10 日の台風に伴う大水害では…本園がある赤見地区では目立った被害がありませんでしたが、佐野市よりも東側の各地では甚大な被害が出てしまいました。茨城県でも鬼怒川の堤防が決壊し、ヘリコプターが家屋に取り残された人たちを吊り上げて救助する映像が流れました。被災されたすべての皆様に、この場を借りて、心からお見舞い申し上げます。

月並みの言葉ですが、自然の猛威をあらためて痛感しました。そしてこれも、よく言われる言葉ですが、ごく当たり前の日常の暮らしの中にこそ、生きていられることの『ありがたさ』があるのだと、改めて気付かされました。この文章を書いている 11 日、園では元気な子どもたちの声が響き合っていました。子どもたちの声って、本当にいいですね。

街中で保育園ができる際、迷惑施設（子どもの声がうるさいから）は作るな、という反対運動があるとか。・・・一体、何が幸せなのか、考えさせられます。都会暮らしが悪いわけではありません。ですがその中に、自然とかけ離れ、大人最優先で利己的で、自己中心的な生き方があるとすれば、私はそれに共感できません。

「モノ・金、モノ・金・・・」という物質的な欲求や金銭的な欲求だけを追求する生き方は、自然との共存や子どものいる暮らしの価値を大切にできる生き方と正反対のものなのでしょう。

私の好きな生き方は、自然の一部として生きることを目指し、でもそれは難しいので、まずは自然と折り合いをつけ、その中で子どもたちが元気で幸せに育つ・・・そしてそのことを若者も年寄りも、女も男も・・・要するにいろいろな大人たちがその価値を共有する。・・・私の好きな生き方は、そのようなコミュニティで暮らすこと。キレイすぎますか？・・・でも、**そんな大人たち**が私の近くには本当にいるのです。

## 『かっぱ観察学会』について

『学会』とは・・・例えば私を含めて本園の職員が会員になっている「日本保育学会」のように、ひとつのテーマやジャンルを決めて、それに関連した研究や実践を発表し合い、質問し合い、議論し合い、それらのテーマやジャンル（例えば、保育）の発展・向上を目指す団体です。

そのようなものを『学会』とするならば、『かっぱ観察学会』というものが、この世に実際にあるわけではありません。『かっぱ観察学会』は、**以前の「ひとりごと」**で紹介した中島太郎さんと私・園長**がある保護者の方**と作った、同好会のようなものです。

↓ 続く

☆以前の「ひとりごと」で紹介した、太郎さん（中島太郎さん）が登場するエピソード

- ・・・上のお子さんの小学校入学を機に下のお子さんを転園させようと考えていた方が、下のような兄弟の会話を聞いて転園を取りやめたというお話です。

「きょうは『かっぱ』を探しに、怪しくて険しい山に行ったんだ!」「でも・・・、〇〇ちゃん（下のお子さん）は、〇〇幼稚園に行くから、『かっぱ』に会えないんだ・・・」  
 「山に登ったら、太郎さんがお弁当を持ってきてくれたんだ!」「・・・あっ、〇〇ちゃんは、もり組にならないから、太郎さんにも会えないんだ・・・」

☆ある保護者の方とは

- ・・・実はこれも、ずっと以前の「ひとりごと」に書いたのですが、ある卒園児のお父さん（トラックで運送業を営んでいる方）が、埼玉の星川という川の橋をトラックで渡った時、川の中にいるかっぱを見たという出来事がありました（そのかっぱの目は、真っ赤だったそうです）。ある保護者の方とは、このお父さんのこと。この出来事を知った太郎さんと私・園長は、「ぜひその星川を調べに行きましょう」ということで、そのお父さんと星川に出かけてきました。そして、その時にできたのが、『かっぱ観察学会』なのです。



この写真は、先日ある日に某所で開かれた『かっぱ観察学会』。急だったので、星川の時のお父さんの参加はなかったですが、新たな会員が参加しました（N氏）。ちなみに、乾杯に使用されたのは、キュウリが入ったかっぱ焼酎でした。キュウリの輪切りが入っているのが、わかりますか？ →

打ち上げで、たまにはお酒も飲みますが、『かっぱ観察学会』では、かっぱと子どものことをよく話します。例えば、・・・

- \*かっぱに会いたいという子ども（あるいは、かっぱを見たという子ども）は、とにかく貴重な存在だ。
- \*どうやって子どもは、かっぱに出会うことができるのか？ どのような出会いが、より良い出会いなのか？
- \*かっぱと子どもの、より良い出会いの結果、保育がどれだけ楽しくなるのか・・・どれだけ保育の価値が高まるのか？
- \*かっぱと子どもの、より良い出会いは、子どもたちに、人と自然の付き合い方を教えてくれるのではないか？
- \*またそこで、結果として育てられる「想像力」は、子どもたちの「生きる力」になるに違いない。・・・などなど。

今年のもり組の運動会・組体操は、ピオトープの所にある「かっぱ石」が、なぜ、動くのかという、子どもたちのファンタジーで作られつつあります。この活動にも当然、『かっぱ観察学会』の成果が、隠し味かもしれませんが、ちゃんと入っています！

↓続く



『かっぱ観察学会』のメンバーは、皆ちゃんとした大人です。ですが、どの人も皆、少年の心を持ち続けている大人たちなのです。私は、あかみ幼稚園・メイプルキッズに関わる方々（保護者、職員、地域の方々など）には、このような大人たちが多いような気がしています。私は今のような世の中だからこそ、このような大人たちが増えることを願っています。

（『かっぱ観察学会』に入会したい方が、もし、いらっしゃいましたら、密かに、中山まで。）



## さて次の話題は、2歳児保育について・・・

認定こども園になってから、いろいろ気が付くことが多いのですが、その一つに、「2歳児保育の意義」があります。もちろん、他の学年の保育も同じく重要ですが、ここでは子育てをしている親・保護者の皆さんの“困り感”を軽減するという意味から、「2歳児保育の意義」に触れます。

☆まず、2歳という時期は・・・以下、国が出している「保育所保育指針」の2歳児の記述から。

したがって、大人の手を借りずに何でも意欲的にやろうとする。 しかし、現実にはすべてが自分の思いどおりに受け入れられるわけではなく、また、自分でできるわけでもないので、しばしば大人や友達との間で、自分の欲求が妨げられることを経験する。ところが、この頃の子どもはまだこうした状況にうまく対処する力を持っていないので、時にはかんしゃくを起こしたり、反抗したりして自己主張することにもなる。 これは、自我が順調に育っている証拠と考えられる。

☆そこでの大人・保育者の関わり方については・・・同じく「保育所保育指針」。

自分でやろうとするが、時には甘えたり、思い通りにいかないとかんしゃくを起こすなど感情が揺れ動く時期であり、それは自我の順調な育ちであることを理解して、一人一人の気持ちを受け止め、さりげなく援助する。

要するに、今まである意味、素直で かわいかった 我が子が、急に「じぶんで・・・！」と言って、親に反抗するようになる時期が2歳g hの時期なのです。そしてその時、今、多くの親たちが、どうしたらよいかわからず困った状況に追い込まれている、という話も聞こえてきます。例えば、・・・

\*オムツをいつどう取ったらいいのかという、トイレトレーニングが、今、難しい。

\*自我が育ってきて、うまくできないけれど自分で靴を履きたい子どもが、「じぶんで・・・！」と言って親・保護者の助けを拒否してきた時（反抗してきた時）、どうしたらいいのか？

\*「一人一人の気持ちを受け止め、さりげなく援助する。」ということは、具体的にどうすることなのか。・・・などなど。

子どもの発達（育ち）のプロセスには、いくつか難しい時期があるとされています。

（例えば、1歳半、2・3歳、9・10歳、18歳・・・）

これらはすべて、発達（育ち）の節目と言われる時期です。すべての時期が大切ですが、このような、ある意味で危機的な時期では、親・保護者は専門家（保育者、教師など）と連携する必要があります。

2歳児保育の話に戻りますが、危機的で難しい、自我が育ってくるこの時期では、保育者と協力してじっくり、子育て・子育てしていくことが大切だと実感しています。「時にはかんしゃくを起こしたり、反抗したりして自己主張する」我が子を、ただ しっかりつけても、逆に、ただ 放っておいても、けっして良い結果にはならないでしょう。

今、子育て家庭が孤立しがちで、「孤育て」なんて言われていますが、そのような時代であればあるほど、お仕事している・していないにかかわらず、2歳児保育あるいは2歳児入園が求められているのでしょう。

あかみ幼稚園・メイプルキッズでは、就労の有無や経済状況にかかわらず、・・・言い換えると、お仕事などの理由で「保育」を受けるご家庭だけではなく すべてのご家庭が、安心して子育てを楽しめるよう、みんなで子育てする環境の充実を心がけていきたいです。

